

航空利用の概況

長崎空港利用者数の推移

(単位:人)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
国 内 線	2,769,292	2,878,834	3,001,915	2,906,428	3,049,261
国 際 (定 期) 線	32,692	72,751	39,382	35,003	51,882
国 際 チャーター便	10,058	3,301	10,134	430	1,408
乳 幼 児	51,012	53,811	56,187	54,858	55,891
計	2,863,054	3,008,697	3,107,618	2,996,719	3,158,442

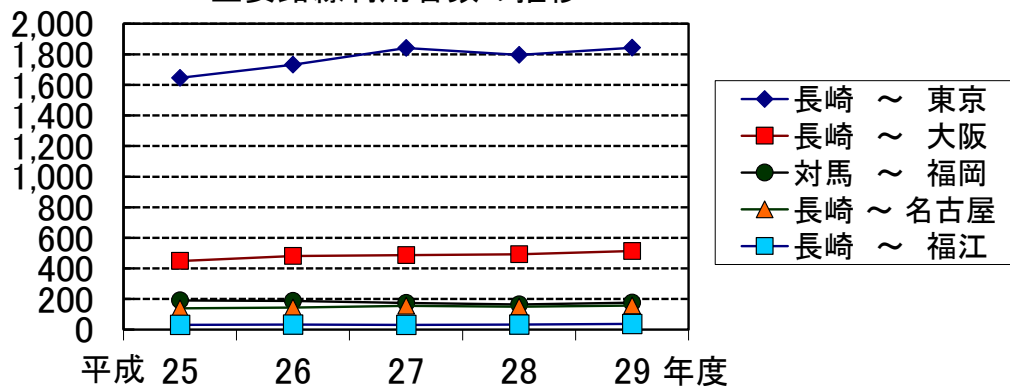
主要路線利用者数の推移

(単位:人)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
長 崎 ～ 東 京	1,646,025	1,732,597	1,841,370	1,796,097	1,842,905
長 崎 ～ 大 阪	448,273	481,429	486,135	493,237	513,746
対 馬 ～ 福 岡	190,346	187,813	173,591	164,021	176,687
長 崎 ～ 名 古 屋	138,930	144,555	155,208	149,442	156,930
長 崎 ～ 福 江	31,452	32,260	30,466	32,552	37,201

注) 路線別利用者数に乳幼児は含まない。

(千人) 主要路線利用者数の推移



本県における航空の歴史は、昭和35年4月、大村空港を国管理空港（旧第二種空港）として供用開始したことに始まり、昭和50年には世界初の本格的な海上空港「長崎空港」として生まれ変わり、さらに昭和55年には滑走路が2,500mから3,000mに延長された。県内には長崎空港のほか、五島つばき空港、壱岐空港、対馬やまねこ空港の4空港に定期便が就航しており、全国の主要都市をはじめ本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京（羽田、成田）、大阪（伊丹、神戸、関西）、名古屋（中部）、沖縄、県内離島の10路線38便、国際線は上海（浦東）・ソウル（仁川）の2路線週5便となっている。平成29年度の利用者数は3,158千人（内訳：国内線（チャーター便含む）3,049千人、国際線（チャーター便含む）53千人、乳幼児56千人）であり、長崎空港開港以来、2番目に多い利用者数であった。

また、離島の空港は、五島つばき空港と対馬やまねこ空港は長崎と福岡、壱岐空港は長崎と結ばれており、平成29年度の利用者数は420千人（乳幼児は含まない）で、生活路線としての役割を果たしている。

※ 路線数及び便数は平成30年12月1日現在の数字。

(県新幹線・総合交通対策課)